オルフェの庭から　25

今年の春のお楽しみ会は、庭の桜の一番見頃な時に、開くことができました。シュレーダーさんの「イースターの秘密」（涼風書林・刊）によれば、春になって花々が咲くのを見て、私たちはそれを愛でますが、実はその背後で、地・水・火・風の四大の霊、あるいは自然霊と呼ばれる存在たちが、活動してくれているからこそ、美しい花が咲くのだそうです。ですから、私たちは、花が咲くのを見る時、そこに四大の霊たちの存在に意識を向け、感謝しつつ、それを祝うことによって、自然霊たちを力づけることになるというのです。

前もって決めておいたお楽しみ会の日にちょうど、桜が満開になるなんて、そんな幸運はめったにないと驚きましたが、四大の霊たちが、せっせとそのように力を貸してくれていたのですね！

そのような日に皆でライアーを奏で祝うことができたことに、深い意味と喜びを感じました。皆様本当に、ありがとうございました。

さて、4月18日のオルフェ・クラスでは、前回に引き続き、復活祭の曲を弾きました。曲を奏でる前には、田原先生の講座で動いた「ハレルヤ」の動きを皆で動き、『魂のこよみ』の箴言を体に響かせて、祝祭の気分を味わいました。また講座でご指導いただいた音階の動きを復習しながら、テーマソング「レーインボーサークル」の歌に応用して動いてみました。「オイリュトミーは見える音楽」という言葉が、少し実感できたいような気がします。これはこれからもやっていきたいです。

５月のオルフェ・クラスは、ヨハネ祭の曲に入ります。

オルフェ・クラスの試みは、私自身いつもドキドキしながら、行なっていますが、少しずつ積み重ねてきたオイリュトミーの体験や田原先生の講座などに勇気をいただいて、可能になっています。

５月にはレーマンさんの講座がありますから、またさらに理解し、受け入れられる部分がふえてくるのではないかと思いますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。　　のんのん

～～～～～『魂のこよみ』ルドルフ・シュタイナー　第４週　～～～～～

＜４月２８日～５月４日＞
「私は自分の本当の存在を感じる」
感性はこう語り
太陽の明るい世界のなかで
満ち溢れる光とひとつになった。
そして明晰な思考に
あたたかなぬくもりをおくり
人間と世界をしっかりと
強くひとつにつないでいく。
（鳥山雅代訳　水声社刊）

＜　４月２８日～５月４日＞
わたしは　自分の本質の極みを感じる、
感性は　そう　語り
太陽に　照らされた　世界で
あふれる光と　結ばれる。
そして　澄みわたる　思考に
あたたかさを　贈り
人と　世界を　しっかりと
ひとつに　結ぼうとする。
（秦　理絵子訳　イザラ書房刊）

＜４月２５日～５月４日　＞「私は自分の存在の本質を感じる。」
そう語る感情は
陽光の明るい世界の中で
光の流れとひとつになる。
そして思考の明るさに熱を贈り
人間と世界を
かたくひとつに結びつける。
（高橋巌訳　イザラ書房刊）現在、ちくま文庫から出版。